取り組み紹介 3

南信州エコツーリズム推進モデル事業

―飯田型ツーリズムの実現に向けた取り組み―

『ふるさと南信州緑の基金』事務局　竹前　雅夫

平成16年度からスタートした環境省のエコツーリズム推進モデル事業は、全国の53地区から応募があり、その中から全国で13地区がモデル地区として指定されました。エコツーリズムという21世紀の新しい旅行形態を普及させるため、環境省ふれあい自然推進室が先導し、エコツーリズム推進会議の検討を経て発表されました。

第1カテゴリーは、典型的なエコツーリズム地域で、白神山地や屋久島、小笠原、知床などです。第2カテゴリーは大量に集客している地域のエコ化で、六甲、裏磐梯、佐世保、富士北麓地区が指定され、第3カテゴリーは飯田市、飯能、福島田尻、南紀熊野、滋賀湖西地区となっています。この第3カテゴリーは、里地里山の身近な自然や生活文化、産業などを生かしたエコツーリズムの展開事例を創り出すことが目的になっています。エコツーリズムには3つの要素が必要です。一つは自然環境のもとで行われること、二つは解説的教育的要素（ガイダンスをもつこと）、三つには持続可能な手法で行われることです。したがって、単なるガイドをつけた自然探索の旅ではなく、自然と文化と人の共生を意識した上の旅行理念であり、それを実現する地域の永続性を意識したものです。飯田市では、牧野市長を委員長とした南信州エコツーリズム推進協議会を構成し、当NPOが支援機関となって、自然・人・歴史・

富士見台高原スノーシュートレッキング踏査

木曽山脈南端風越山資源踏査

文化・民族・産業というエコツーリズム資源の踏査、トレッキングルートの開発とモニターツアーの実施、インタープリター養成、地域認証基準の創設、赤石山脈世界遺産運動の展開などを運動課題として取り組んでいます。

今年3月には日本エコツーリズム協会と共催で、全国エコツーリズム大会in南信州を開催し大きな反響をいただきました。第3カテゴリーに期待されているのは、国内の中山間地型ツーリズムのモデルを創り出すことであり、体験型観光やグリーン・ツーリズムの先進地となっている飯田市が、所謂、著名観光地でない地方都市が、エコツーリズムの手法で、経済効果と自然・人の持続性を確保した地域づくりを実現すれば、日本全国の過疎化や少子高齢化に悩む地域の課題に一つの解が出せることになるでしょう。期待は大きいと自覚して新しい形の地域振興を目指して前に進むしかないと考えています。

＜連絡先＞
NPO法人　ふるさと南信州緑の基金
〒395-0043 飯田市通り町2-1 りんご並木の三連蔵内
TEL. 0265-53-7817
URL:http://www.furusato-ms-midorinokikin.jp/

事例紹介

エコツーリズムの先進地　コスタリカ

昆虫生態担当　須賀　丈

朝8時ごろ、モンテベルデ雲霧林保護区の入り口でガイドのメルヴィンさんを紹介されるとすぐに、メルヴィンさんは、めずらしい鳥の声がする、とわたしたちをトレールへとみちびいた。声をひそめ足音をしのばせて、トレールを急ぐメルヴィンさんの跡を追い、わたしたちはあてずっぽうにメルヴィンさんの動作をまねて、双眼鏡で樹冠のあたりをあちこち見上げる。メルヴィンさんが三脚のついた望遠鏡を地面に置き、方角をさだめて枝にとまっているヒゲドリの姿を今にもとらえようとしたそのとき、わたしたちのうちのだれかが少し大きな音を立ててしまったのだろうか、はばたく音がしてそれは飛び去った。「残念!」とメルヴィンさんが小さな声をあげる。

2003年4月、わたしはコスタリカの熱帯林保全活動を支援しているNGO「にっぽんこどものじゃんぐる」の方々とともに約2週間この国を訪問し、いくつかの国立公園や自然保護区でエコツアーを体験した。エコツーリズム発祥の地とされるコスタリカは、南北アメリカ大陸の間がもっともせばまった場所であるパナマ地峡の北西に位置する。25の国立公園のほか、民間のものをふくめると100以上の自然保護区があり、国土の約4分の1がこのような保全の対象になっている。

ホエザルがジャンプ!

この国にも、国土の熱帯林の大部分を失った過去がある。その土地の多くは牛の放牧地となり、生産された牛肉は多くが米国に輸出されていた。1980年代にこの牛肉の価格が下落したとき、この国は経済的苦境におちいった。その後、政策の転換が起こり、生物多様性の恩恵に根ざした発展をめざす試みがおこなわれるようになった。そしてエコツーリズムの振興などにより、現在ではバナナなどの農産物に変わり観光が外貨収入源の一位を占めるようになっているという。

トルトゥゲーロ国立公園を行く

ブラウリオ・カリージョ国立公園にあるエアリアル・トラムは、空中ゴンドラに乗って熱帯雨林の林冠のさまざまな着生植物などをながめることのできる施設だ。多国籍の多くの大学の連合体が運営しているラセルバ生物学研究施設も、一般のビジターの訪問を受け入れている。カリブ海に面したトルトゥゲーロ国立公園には、海岸近くの水路をボートに乗っておとずれる。岸辺でホエザルの群れが1匹ずつ樹から樹へとジャンプするのを見た。水面の上を低く、さまざまな色のチョウが横切った。

コスタリカのエコツーリズムには、熱帯生態学のめざましい発展の成果がよく活かされている。ガイドの解説がそうした内容をふまえているだけではなく、ビジターセンターには訪問客向けの教育ビデオが用意され、売店にもさまざまな解説書や図鑑などが売られている。一方、グアナカステ保全エリアのように、エコツアーよりも地元の学校の生徒たちへの自然教育に大きな力を入れている場所もある。コスタリカの人口は約300万人。信州のおよそ1.5倍だ。自然の姿にはちがいがあるが、この小さな国の試みは、これからの信州の姿を考えるときにもさまざまなヒントをあたえてくれるのではないだろうか。

（編集部註:体験の雰囲気を生かすため、である調の文体になっています。）

エコツーリズムへの予感

～「里山歩き」と栗ごはん～

自然環境保全・利用ユニットリーダー　富樫　均

里山歩きとは？

環境保全研究所では、年間を通じて「自然ふれあい講座」という一般向けの観察会を行っています。そのなかで、2001年度から継続して「里山歩き」シリーズを企画し・開催してきました。これは、県内各地のさまざまな里山を実際に歩きながら、地域を丸ごと観察し、味わい、里山の抱えるさまざまな課題を共有しようという試みです。これまで県内17箇所で企画し、今年10月で完結する予定です。

雪国の民家の特徴と暮らし（小谷村）

ひと味ちがう観察会

「里山歩き」の企画と、その基本的な実施スタイルは、そのときどきの担当者間で相談しつつ、検討を積み重ねながら作ってきました。「里山歩き」シリーズの最大の特徴は、研究所の複数の専門担当が一緒に歩きながら、地域の自然や生活、歴史、文化を丸ごと観察し、体験してみようという点にあります。里山の魅力は、花や虫、岩や川や道といった個別の対象だけではなく、それらの関連性にも見つけることができます。また、里山の自然は人の暮らしを抜きにはできませんが、暮らしを理解するには、土地の歴史を知ることが必要です。そのため準備段階では、複数のスタッフが協力して、ルート選びから、観察ポイントの設定、観察会のねらいなどを一緒に検討することにしました。また、理解に役立ててもらえるように、毎回地域の歴史年表と、見どころマップ、解説をセットにした簡易な資料を用意し、参加者に配布することにしています。

長野県は変化に富む地形や標高差、気候条件、複雑な自然史や歴史をもっており、ひとくちに「里山」といっても、各地に多種多様な環境や文化が育まれています。次ページに示すように、17の開催地では、地域ならではの様々な見どころやテーマが設定されました。

里山歩きをのぞいてみれば

当日は、一緒に里山を歩きながら、4～5人のスタッフが各観察ポイントで解説を行います。地元の方などにも直接話をお聞きし、参加者同士による意見交換も行います。参加募集人数は、毎回20名にしていますが、この企画のねらいである「地域を知り、思いを共有すること」ができるためには、このくらいの規模に抑えることが必要でした。ルートには旧街道あり、杣（そま）道あり、登山道ありで、季節に応じた花や生き物たち、人の暮らしや民家、歴史的な景観、変化に富む地形や地質など、思いがけない発見や出会いもたくさんありました。

たとえば長野市旭山ではカタクリの群生や善光寺平の眺望の意味、飯山市富倉峠では雪国の暮らしと富倉古道、小谷村千国街道では野生ミツバチの巣に地すべり現象、南牧村飯盛山周辺では高原野菜にフォッサマグナの物語、天龍村焼尾峠ではかつての秋葉道（為栗道）の自然と歴史、明科町長峰山では市民による里山整備活動、伊那市では段丘と暮らし、飯綱高原や霧ケ峰では高原の自然と草原の意味、といった具合です。信州の

かつての秋葉道と炭焼き窯跡（天龍村）

自然ふれあい講座「里山歩き」の概要（2001年～2005年）

	実施年月	場　所	主要な見どころ・テーマ	主担当
1回	2001年　4月	旭山（長野市）	カタクリ群生、都市近郊の里山、長野盆地	（須賀）
2回	2001年10月	かつら山（長野市）	芋井の集落、かつての戸隠道、飯縄信仰	（富樫）
3回	2001年11月	富倉峠（飯山市）	雪国の暮らしと自然、歴史の道	（浜田）
4回	2002年　5月	千国街道（小谷村）	塩の道、雪国の自然、災害と暮らし	（富樫）
5回	2002年　8月	飯盛山（南牧村）	草原と生き物、高原野菜、観光地（清里）	（須賀）
6回	2002年10月	長峰山（明科町）	里山保全活動、フォッサマグナの大地形	（畑中）
7回	2003年　4月	中綱湖～姫川源流（大町市・白馬村）	湖水環境、河川源流域の自然	（須賀）
8回	2003年　5月	焼尾峠（天龍村・南信濃村）	古道（秋葉道）、南信州の自然と暮らし	（富樫）
9回	2003年　9月	塩田平（上田市）	ため池、里山の変化、里山保全活動	（畑中）
10回	2003年10月	鳥居峠（木祖村・楢川村）	中山道、ドングリの調査、俳句会	（堀田）
11回	2004年　5月	居谷里湿原（大町市）	湿原の花と昆虫、かつての湿原利用	（堀田）
12回	2004年　9月	菅平高原（真田町）	湿原の植物・動物、湿原の特徴と人為改変	（須賀）
13回	2004年　9月	伊那谷の段丘（伊那市）	段丘、段丘崖の林、地下水利用、宿場町	（畑中）
14回	2004年10月	小泉山（茅野市）	身近な里山の保全と利用、雄大な地形と地史	（富樫）
15回	2005年　5月	飯綱高原（長野市）	里山としての高原、里山変遷と多様な環境	（富樫）
16回	2005年　7月	霧ケ峰高原（諏訪市・下諏訪町）	高原の植物・昆虫、かつての利用	（須賀）
17回	2005年10月	虫倉山麓（中条村）	休耕田畑、里山の魅力と里山の将来（予定）	（畑中）

里山は、こんなにも多様で、たくさんの大事なものをもっているということがわかりました。簡単にいえば、形としてはウォーキングに近く、内容は自然や歴史や暮らしを見つめ、そのつながりや意味を味わうものといえます。まだ、エコツーリズムとはいえないけれど、エコツーリズムへの入り口にいることを十分に予感させるものでした。

じつは、里山歩きは栗ごはんなのだ

「里山歩き」の企画をすすめながら、個人的には、「郷土史探訪」と「自然観察」を融合させてみたいという思いがありました。歴史と自然をいっしょに学ぶことには、1たす1の情報が5や10の発見につながる期待があります。郷土史が専門の方も、自然観察中心の方も、それぞれに見学会を催していますが、これまで両者が一緒になる機会はあまりなかったのではないでしょうか。もしそうだとしたら、ひじょうにもったいない。たとえば、栗とごはんは別々に食べるのもいいけれど、「栗ごはん」にすれば、さらにうまさが広がるというのと同じことです（ん？）。

信州の里山としての高原の魅力（霧ケ峰）

講座を通じて見えてきたのは、「（信州の）人の暮らしとともにある自然の魅力」です。ご紹介した「里山歩き」は、その魅力をどう引き出し、共に味わうかという実験でもありました。地域の宝の掘り起こしや地域の価値の再発見をしたい、あるいは独自のエコツーリズムの開発に取り組もうと考えておられる方に、すこしでも参考にしていただければ幸いです。　（地形・地質担当）

こんなことやってるよ！

活動紹介

松本自然観察会

20年以上にわたり、知らない世界を、欲ふかく観察

「松本自然観察会」は、自然を愛する人たちの集まりです。発足は昭和60年の4月ですが、もともとは、松本市公民館活動の成人学校（昭和58年の「松本平の自然」）が始まりで、故田中邦雄（元信大教授）先生、故奥原弘人先生を講師として、自然を学ぶ会として歴史を重ねてきました。会では「たですみれ」という会報を発行しています。タデスミレはご存知のとおり、現在絶滅危惧種になっている植物名です。現在70名程の会員がおりますが、この会報は会員相互のきずなにもなっています。一年を通じて月1回程の例会を行なっていて、今年8月には、飯綱高原の逆谷地湿原に行って来ました。その際には、環境保全研究所で湿原の価値や保護の状況について解説をしていただきました。

私たちの会では、毎年11月から2月頃までの間に、次年度の計画を立てています。概ね4月～8・9月頃までは植物の観察、9月頃からは主に地質や地学関係の観察を行なっています。地学関係では、化石の研究で新聞に載った会員もおります。毎年4月に松本市美ヶ原温泉の裏山で行なう観察会が恒例になっていますが、ここはスミレの種類が多く、同じ場所で同じ時期に観察会を開いても、一年として同じ年はなく、年々少しずつ変化していることがわかります。私自身はその変化を比較研究しているわけではありませんが、会員の中から、いずれはそういった研究発表ができる人が出てくることが期待されます。そんな風に、歴史のあるこの会が、ますます発展できるよう願っています。今年は、飯綱高原の後、9月には高ボッチ高原へ、さらには飛騨の神岡へも行く計画です。自然の変化とともに、一方では何億年も変わらない地殻のありようを観察したいと思います。

知らない世界がまだまだたくさんあり、よりくわしく、より正確に、欲ふかく観察をしていきたいと思っています。

（中村　貢）

飯綱高原の逆谷地湿原で（2005年8月7日）

会への問い合わせ先
「松本自然観察会」会長　中村　貢
〒390-0806 松本市清水2-8-1
（Tel　0263-32-3452）

こんな本みつけた

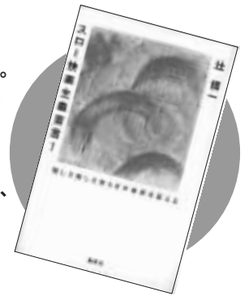
スロー快楽主義宣言！～愉しさ美しさ安らぎが世界を変える～

辻　信一著（集英社、276P、1,800円、2004年発行）

スローということばには、遅い、不便といった負のイメージがつきまとう。スローに生きるとは、環境にいいエコロジカルな暮らしをすることであり、産業やビジネスをよりゆるやかな時間の流れへと引き戻すことである。このスローの中にこそ真の快楽が存在すると著者はいう。

これまで社会の発展とは、自分にないもの、身の回りにないもの、地域にないものを見つけてきては、それを手に入れることであった。しかし、自分にないものを求めて買い続けているといつまでも満足することはなく、永遠に買い続けなくてはならない。自分の身の回りに何があるか、すでにあるものの中にこそ、愉しさ、美しさ、安らぎ、おいしさが満ちている。これは単に日常の消費生活だけでなく、ものづくりやまちづくりにも当てはまる。「何がないか」から「何があるか」への発想の転換。これは社会の価値基準そのものの転換でもある。

文化人類学者である著者は、数多くのNGOやNPOに参加しながら、「スロー」というコンセプトを軸に環境・文化運動を進めてきた、スロー・ライフ提唱者の第一人者である。本書には、著者を始めスローな快楽を享受している人たちが登場し、読者はいつのまにか快楽の世界へと引きずり込まれてしまう。そこでは、決して“スロー＝禁欲”ではなく、スローと快楽は両立するものなのである。自然破壊や地球温暖化などの環境問題も、スローな快楽を多くの人が追求することによって解決に向かう。ないものねだりから、あるもの探しへ。古くて新しい、愉快なエコロジー革命時代の到来である。（紹介者　畑中健一郎）



フィールドノートから

佐久地域に広がる外来種アメリカミンク

動植物生態ユニットリーダー　岸元　良輔

1. 世界で養殖されるアメリカミンク

ミンクはイタチ科に属し、川や池、湖、海岸などの水辺を主要な生息場所とする半水生の動物です。世界には2種が分布し、北アメリカにはアメリカミンク、フランス及び東ヨーロッパから北西アジアにはヨーロッパミンクが生息します。このうち、アメリカミンクは特に優れた毛皮をもつことから、1866年以来、毛皮獣として家畜化され、世界各地で養殖されるようになりました。

各地で養殖されたミンクが逃亡したり、放獣されたりして帰化定着することで、在来種と競合したり、人間との関係で様々な問題が生じています。日本では、1928年に北海道に初めて輸入され、1960年代のピーク時には飼育頭数が100,000頭が越えるまでになっています。このため、逃亡したミンクが全道の河川に広がり、養鶏や養魚場に対する被害額が1984年のピーク時には3億円に達しています。また、野生鳥類の減少の原因になっているともいわれています。

2. 千曲川に沿って広がるミンク

そのミンクが、最近、長野県で広がり始め、養殖魚や放流魚に対する被害が問題になり始めています。千曲川の源流域にあたる川上村内で、1983～1991年にミンクが飼育されていたそうで、現在では佐久地域において多くのミンクが目撃されています。そこで、ミンクの分布の現状を知るために、2004年に南佐久南部漁協にご協力いただいて、川上村～八千穂村（現佐久穂町）において目撃情報に関するアンケート調査を行いました。

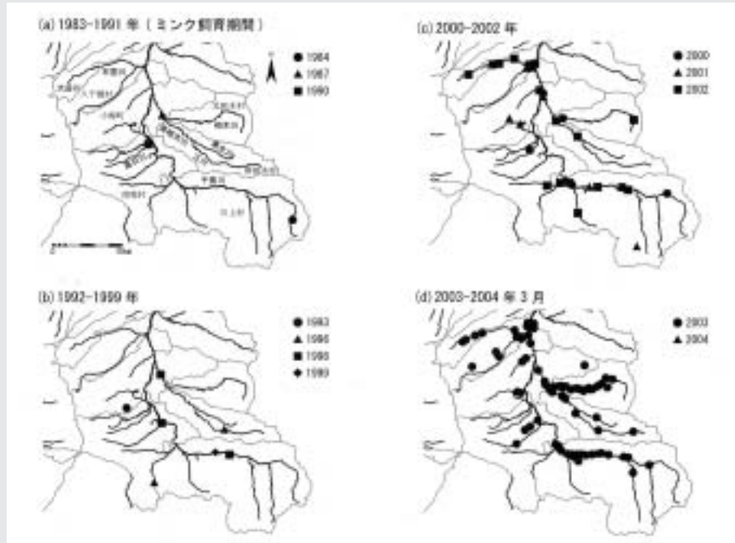
その結果、2000年頃からミンクをよく見かけるようになり、2003年前後には千曲川やその支流に沿って、広く分布していることがわかりました。さらに下流の佐久市まで目撃情報があり、千曲川に沿ってほぼ50kmくらいに広がっていると推定されます。しかも、最近は小諸市でもそれらしい目撃情報があるとのことで、確実にミンクの分布が広がりつつあります。

3. ミンク対策をどうするか？

外来種問題は、生物多様性保全上の最も重要な課題の1つとして国際的に認識されています。1992年に採択された生物多様性条約の中で、「生態系、生息地もしくは種を脅かす外来種の導入を防止し又はそのような外来種を制御しもしくは撲滅すること」という方向性が示されています。生物多様性条約に批准している日本も、生物多様性国家戦略の中で、（1）外来種の侵入予防、（2）侵入の初期段階での対応、（3）定着種の駆除と管理、の3段階の対応策が盛り込まれています。

この対応策によれば、すでに千曲川に定着してしまったミンクは、撲滅させるか、それが不可能な場合は分布拡大を封じ込める手だてを考える必要があります。現在、漁協が主体となってミンクの駆除を始めています。しかし、漁協だけでは撲滅あるいは分布拡大の封じ込めはとても無理な状況です。生物多様性の保全を考えるうえで、今後は地元だけでなく、県や国も含めた体制を考えていく必要があると思います。

（哺乳類生態担当）



川上村～八千穂村（現佐久穂町）のミンクの目撃情報

アンケート回答者から寄せられたミンクの写真。全身1色だが、品種改良が行われて銀色、灰青色、灰褐色、黒色など十数種の毛色がある。